

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名 作品の要旨を経験と照らし合わせながら捉え、心の世界を広げ、深めよう。

「ぼくの世界、君の世界」 西 研

2 単元の目標

- 1つめの例の反証として2つめ例を提示し、それらの例から主張を述べるという文章構成について理解できる。 (知識及び技能 (1) カ)
- 事例から結論を導く過程に気を付けて読み、「ぼくの世界、君の世界」の要旨をとらえることができる。 (思考力、判断力、表現力等 Cア)
- 「ぼくの世界、君の世界」を自分の経験と照らし合わせながら読み、考えたことを交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 (思考力、判断力、表現力等 Cカ)
- 「ぼくの世界、君の世界」に興味・関心をもって読み、自分が考えたことを積極的に発表したり、友達の考えと比較したりする。 (学びに向かう力、人間性等)
- 積極的に「ぼくの世界、君の世界」や哲学に関わる本を読み、友達に自分の考えを伝えようとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

3 評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・「自分だけの心の世界がある」例の反証として「だからこそ人は、心を伝え合うための努力」の大切さを述べる文章構成について理解することができる。(文や文章 カ)	・具体例と筆者の主張の関係に気を付けて読み、作品の要旨を捉えている。(C 構造と内容の把握 ア) ・自分の経験と照らし合わせながら作品を読み、考えたことを発表し合い、一人一人の考え方の違いに気付き、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C 共有 カ)	・「ぼくの世界、君の世界」を読んで感じたこと、考えたことを友達に伝えたり、自分の考えと照らし合わせたりしながら友達の考えを聞こうとしている。 ・哲学に関わる本を読み、作者の考えを捉え、自分のものの考えを広げたり、深めようとしていたりしている。

4 単元について

(1) 児童の実態

省略

(2) 言語活動と単元の特徴

本単元は、「哲学の本を読んで考えたことを友達と交流しよう。」という言語活動を通して、「C 読むこと」の「構造と内容の把握 ア事実と感想、意見などとの関係を叙述に基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。」「共有 カ文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。」の資質・能力の育成をめざす。また、現行の指導要領では「読むこと」(オ)「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」と書かれていたものが、新学習指導要領では(オ)文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること(カ)「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること」と分けて書かれていることに留意したい。一人で考えただけでは気付くことができなかつたことに目を向け、自分の考

えが広がったり、深まったりする経験をさせたい。

児童は6月に「森林のはたらきと健康」を読み、推薦文を書いた。推薦文を書くには、自分が感心した根拠を明らかにする必要が生まれる。文章の内容だけでなく図や表に着目し、工夫が凝らされた説明の仕方に気付くことができた。また文章構成にも目を向け、客観的な実験データを示し考察するといった、筋道立てて説明することの大切さにも気付くことができた。

「ぼくの世界、君の世界」は哲学を題材にした論説文である。「森林のはたらきと健康」のような客観的な事実を根拠に説明する文章ではなく、あるできごとを仮定し、さまざまな可能性を考えながら考えを深めるという特徴がある。筆者が小学生のときに感じた「世界は自分だけにそう見えているのではないか」という疑問から「自分には、自分だけの心の世界がある」ということに気付き、そして「だからこそ人は、心を伝え合うための努力を始めるのだと思う。」という考えにいたる過程が書かれている。児童は筆者の問いかけに自分なりに答えながら、「自分だったら…」と経験と照らし合わせ、楽しみながら初めて出会う論説文を読み進めることができるであろう。

本学級には普段から自我が芽生え、自分の思いや考えを常にもち、発信しながら生活することができる児童もいるが、自分の意見を生み出し、発信することが難しい児童もいる。本単元で「自分が考えたことを友達と交流する」ためには、まず自分の経験と照らし合わせながら筆者の意見に対して自分の考えを生み出す必要がある。そこで、普段の生活の中で、それぞれ考え方が異なる題材を取り上げ、継続的に自分の考えをもつ習慣を身に付けさせる。また、それを交流することで共感したり、違いを見つけたりしながら自分の考えを広げたり、深める経験をさせたい。

本単元で身に付けた「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の力は1月教材の伝記「伊能忠敬」、3月教材の「君へ」を読む際、再び発揮される資質・能力となる。

5 主体的・対話的で深い学び

(1) 主体的な学びの視点

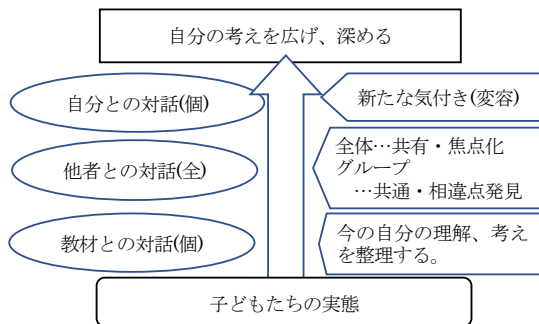
「筆者が取り上げている例を自分の経験と照らし合わせながら読む」

児童はこれまで、説明文「森林のはたらきと健康」、物語文「きつねの窓」の学習において、「いちばん印象に残った内容」・「疑問に思った、もっとよく読みたいこと」・「大切だと思うがよくわからない語」をもとに学習問題について考え、読み進めてきた。本教材も常に根拠を作品中に求め、主体的に課題を解決しながら読ませたいと考える。これまでは、作品に対して想像を膨らませながら読み、感想をもつ活動に取り組んできたが、本教材では「自分の経験と照らし合わせながら」読み、自分の心の世界を広げたり、深めたりする経験をさせたいと考える。

また、これまで学習問題を一読した後の初発の感想をもとにつくってきたため、単元の目標にせまるような学習問題ではないものが数多く出されてきた。また、本文から答えを導き出すことが不可能な疑問も多く出され、せつかくの子供の学習意欲を授業にうまくつなげられなかった。そこで本単元の学習では、朝自習や家庭学習の時間を活用し、継続的に「ぼくの世界、きみの世界」をはじめ1類の本の音読、暗唱に取り組ませる。何度も繰り返し作品を読んだり、哲学にかかわる作品を数多く読んだりした後、学習計画を立てることで、作品の主題にせまる課題や、心の世界に対する疑問があげられると考える。単元の導入の際、説明文と論説文の違いをとらえさせ、論説文を読むときの姿勢について重点的に指導することで、子供たちにとって自分の「心の世界」が豊かになる体験をさせ、これから論説文を読む際の意欲につなげたいと考える。

(2) 対話的な学びの視点

「教材との対話・他者との対話・自分との対話」



児童はこれまでも友達と作品を読んだ感想や考えを交流する経験をしてきている。ノート指導ではどの教科においても、自分の意見や考えを黒で書き、新たに学んだことや友達の意見を聞いて気づいたことを赤で書き、視覚的にも捉えられるようにしてきた。しかし、これまでの話し合い活動を振り返ると、まだ自分の意見を相手に伝える一方向的な活動になっていること、自分の意見や考えを明確にもつことができず、

ただ聞いているだけになってしまっている児童がいることが問題点としてあげられる。そこで、本単元では教材との対話を充実させることで、友達との対話をより活発で、実りあるものになりたいと考える。作品を読む際には常に内容と自分の経験を照らし合わせながら読むために2色の付箋を活用する。共感できる、似たような経験がある内容にはピンクの付箋を、よくわからなかった、納得ができない内容には青い付箋を貼りながら読むことで、筆者の主張に対して常に自分の経験を重ねながら読むことができると考える。下位の児童もこの教材との対話で自分の立場を明確にできれば、他者との対話の際、友達の意見と比較しながら、共通点や相違点を見つけ、楽しみながら取り組むことができるであろう。また、できるだけ2次での学習活動を決まった型で授業を進めることで、学び方の基本を定着させたい。

同時に継続的に家庭学習で日記指導等にも取り組み、共通の出来事に対して自分の考えをもつ経験をさせ、その結果を教室に掲示する。自分の考えをもち、表現することを習慣化させていく。そして学習の最後にはもう一度自分との対話の時間を作り、身に付いた力を確認したり、新たに得た考えや広まった考えを再認識させたりすることで、学習の必要感や達成感を高めたい。

(3) 深い学びの視点

本単元の2次で学びが深まった子供の姿とは、筆者の挙げた例に対して自分の経験を照らし合わせることで、より考えを深めることができたときに達成されたと言える。また、筆者の主張に対して反対もしくは付け足しの意見を考えることで、子供同士の交流した際、新たな発見が生まれ、より考えを広げさせたい。児童の実態を考えると筆者の意見に対し、賛同し、自分の経験を重ねて考えることができる児童はいても、新たな考えをそこに付け足すことができる児童がいないことが予想される。そこで、自分の経験と照らし合わせる際に、批判的な視点や、不足する点にも目を向けるよう声をかけていきたい。

また、3次の「今の私たちの心の世界に目を向けて考えを書く。」時間を設ける。並行読書や日々の日記等で感じている疑問や考えを伝え合う時間を設定することで、「ぼくの世界、君の世界」で考え始めた心の世界についてより、テーマを広げ、友達と意見を交流することができる。並行読書で読んできた本の筆者の主張を読み、その考えに対して自分なりの意見や考えを付け足す活動を通し、「自分の経験と照らし合わせながら読む」姿勢を習慣化させたいと考える。

6 指導計画（全9時間）

次	時間	学 習 活 動	指導や支援の手立て（◇は評価）
第一 次	1	<p>○事前のアンケートをもとに哲学についてのイメージを共有する。</p> <p>○単元を通してのめあてを確認し、学習計画を立てる。</p> <p>○「ぼくの世界、君の世界」を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の伝えたいこと、よくわからなかったこと、調べたい語句を見つけて全体で共有する。 ・音読の練習をする。 	<p>○「こども哲学」、「10代の哲学さんぽ」、中学校の教科書を紹介しながら、哲学は私たちにとって身近で、物事を考えるもとであることを感じさせる。</p> <p>◇「ぼくの世界、君の世界」を読んで、感じたことや自分の経験について積極的に書こうとしている。</p> <p>（学びに向かう力・人間性）</p>
	2	<p>○「ぼくの世界、君の世界」と「森林のはたらきと健康」を比べて読み、その内容や表現の差について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論説文とはどんな文章か知る。 ・簡単な文章構成について考える。 <p>○付箋を使い、筆者があげている例と似たような経験がないか考え、メモを貼り付けながら文章全体の構成について考える。</p>	<p>○「森林のはたらきと健康」と比較しながら、伝えたいことを支えるのが客観的な事実ではなく、ある出来事の過程とさまざまな可能性であることに気付かせる。</p> <p>○自分の考えを友達と交流するためにはまず正しく筆者の主張をとらえる必要があることを示すことで、要旨をとらえる必要感を感じられるようにする。</p> <p>◇「森林のはたらきと健康」と比較することで、作品の特徴を理解している。（知・技）</p>
第二 次	5 本時	<p>○筆者が「うす暗い電球」「あまみ、痛み」「好きなアニメの会話」の例で何を伝えようとしているのか考え、短い文章でまとめ、グループで発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辞書で語句を調べる。 ・短い文章でまとめるときに欠かすことができない大切な語句を見つける。 ・「うす暗い電球」の例で筆者が伝えなかったことをできるだけ短い文章でまとめる。 <p>○グループで発表し合った内容をもとに、「うす暗い電球」「あまみ、痛み」「好きなアニメの会話」の例で伝えなかったことを全員で考える。</p> <p>○筆者と同じような「心細さを感じた」「理解しあえない」「心を伝え合った」体験がないかふりかえり、交流する。</p>	<p>○①電球を見たときの体験は自分だけのものか？</p> <p>②あまみや痛みのような感覚は共通か。 →同じという保証はない。 →それなら、理解しあえないのか。</p> <p>③それなりに心を伝えたり受け取ったりしている。 →自分だけの心の世界がある。 →だからこそ人は、伝え合う努力をする。 上記のように具体的な体験のつながりが意識できるように問いと答えの関係をつかめるようにする。</p> <p>◇作品の要旨を読むために、具体的な例の役割について考えている。（思・判・表）</p> <p>○立場を「共感」と「それだけでなく（意見の追加）」の2つにし、立場を明らかにしながら自分の考えが書けるようにする。</p> <p>○発表のはじめに「そうだよね、私も…。でも…」と型を示すことで共感以外の考えも伝えやすくする。</p>

哲学に関わる本の並行読書

身近な疑問に対して意見をもち、交流する活動

		<p>○もう一度筆者が例を用いて伝えたかったことが何か再考する。</p> <p>○文章全体の中での役割について考える。</p>	<p>哲学に関わる本の並行読書・身近な疑問に対して意見をもち、交流する活動</p>	<p>◇自分の経験と照らし合わせながら作品を読み、考えたことを発表し、自分の考えを広げたり深めたりしている。(思・判・表)</p>
	6	<p>○これまで読んできた例の役割を確認しながら、作品全体の要旨をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで筆者がどのような問題をあげ、どのような答えを出したか確認する。 ・自分で書いた要旨と友達の書いた要旨を読み比べ、もう一度例が何のためであったのかを再確認する。 		<p>○最終段落の中に述べられていることが、それ以前のどの例が根拠になっているかを明らかにしながら、要旨をまとめさせる。</p> <p>◇「ぼくの世界、君の世界」の要旨をとらえることができる。(思・判・表)</p> <p>◇1つめの例の反証として2つめ例を提示し、それらの例から主張を述べるという文章構成について理解できる。(知識・技能)</p>
第三次	7 8 9	<p>○並行読書で読んできた1類の本の中から新たなテーマを選び、筆者の主張を読む。</p> <p>○作品について自分の経験と照らし合わせながら読み、自分の考えや主張についてまとめる。</p> <p>○似たテーマを選んだ友達と考えを交流し、広がった、深まったことを発表し合う。</p>		<p>○お互いが出している具体的な経験を比較し、主張だけでなく論の進め方に着目して読むよう指導する。</p> <p>◇友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、より自分の考えを広げたり、深めたりしている。(学びに向かう力・人間性)</p>

7 本時の目標と展開

(1) 本時の学習

本時は「人と人は理解し合えるのか」という学習問題に沿って自分の経験と照らし合わせながら自分の考えをもち、交流し、心の世界を広げたり、深めたりする学習活動を行う。14～19段落の特徴としては、14段落で「そう（人と人とは永遠に理解し合えない）ではない、とぼくは思う。」と立場を明確にして、その後アニメの例が始まる。アニメの例で主張の根拠を明らかにしていくが、児童はその例を自分の経験と照らし合わせながら想像し、筆者の意見に賛同できるか考えやすい段落構成となっている。

「アニメ」の例で筆者が何を伝えようとしているのかを考えながら、「人と人は理解し合えるのか」自分の主張を展開していく。考えが似ている児童、立場が違う児童の意見を発表し合い、聞き合うことで、より考えが広がり、深まり、筆者の言いたいことを明確に捉えられると考える。自分の経験をもとに「人と人は理解し合えるのか」考えたあと、もう一度筆者の主張を確認することで、より筆者の伝えたいことへの理解が深まると考える。

(2) 本時の目標

- 14～19段落を読んで、「アニメ」の例で筆者が伝えたいことが何か考える。
(思考力、判断力、表現力等 Cア)
- 自分の経験と照らし合わせながら読み、考えたことを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等 Cカ)
- 14～19段落を読み、自分が考えたことを積極的に発表したり、友達の考えと比較したりする。
(学びに向かう力、人間性等)

(3) 本時の展開 (5/9)

学習活動と内容	指導や支援の手立て (◇は評価)
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。(5分)</p> <p>・14段落を読み、「そうではない、とぼくは思う。」という筆者の立場を確認する。</p>	<p>○「うす暗い電球」「あまみと痛み」の例が何を伝えるために書かれていたか確認する。</p> <p>○「そう」の指示語が何を指しているのか考えさせ、筆者の立場を確認させる。</p>
<p>人と人は理解しあえるのか、自分の経験を思い出しながら考えを交流しよう。</p>	
<p>2 「人と人は理解し合えるのか」自分の立場を明らかにし、これまでの経験を思い出しながら14～19段落を読む。(15分)</p> <p>○教師の範読を聞きながら、自分の立場の根拠となる文を探しながら聞く。</p> <p>・理解しあえる…赤で線を引く。</p> <p>・理解しあえない…青で線を引く。</p> <p>※「感じ方のちがいに気づかされる」「ちがいがわかった」「それなりに心を伝えたり、受け取ったりしている」の捉え方に差が出ると予想。</p>	<p>○自分の立場を決めかねている児童は無理に決めさせず、14～19段落に書かれた筆者の体験例を参考に決めるよう声をかける。</p> <p>○アニメの例で述べられている「会話を夢中になった経験」や「意見の違いが表れた経験」がないか思い出させる。</p> <p>○上位の児童には、筆者の主張に賛同するだけでなく、より自分の主張に説得力をもたせるためにはどんな条件が必要となるか考えさせる。</p> <p>○下位の児童には日常で友達と意見交換をした経験を想起させる。思いつかない場合は学校での共</p>

<p>○自分の経験を振り返り、常に「自分だったら」と想像しながら読み、似たような経験が自分自身にないか想起する。</p> <p>3 立場が同じ、または異なる友達と意見交換をし、自分の考えと比較する。(15分)</p> <p>A 理解し合える (似たような経験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者が主張するように、言葉と表情があればある程度は理解し合える。私も… <p>B 理解し合えない</p> <p>(不足していることのつけたしや反対意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じ方の違いに気付かされると筆者が言っている。前の段落で読んだように、感じ方は人それぞれなんだから… <p>4 考えを交流したことをもとに、筆者の伝えたいことをもう一度読み、気づいたことを発表する。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西さんは「違いがわかった」ことも分かり合うと捉えていることがわかった。 ・西さんも感じ方は人それぞれで同じではないとわかっているからこそ「それなりに」という言葉を使ったと思う。 <p>5 本時の振り返りをし、次時のめあてを確認する。(5分)</p>	<p>通の経験を例にあげ、考えさせる。</p> <p>例)・委員会や係活動 ・ロング昼休みの遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農山村留学のスタンプ決め <p>○ピンク (理解しあえる) と青 (理解しあえない) の札に①自分の考えの根拠となる文章、②自分の経験、を記入させる。</p> <p>○元となる文章が同じ児童の札を近くに掲示し、視覚的に意見の差が捉えられるようにする。</p> <p>○同じ場所を選んでいるが、立場が異なる考えが表れている部分を重点的に紹介させる。</p> <p>◇14~19 段落を読み、自分が考えたことを積極的に発表したり、友達の考えと比較したりする。</p> <p>(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>◇自分の経験と照らし合わせながら読み、考えたことを交流し、自分広げたり深めたりすることができる。(思考力、判断力、表現力等 Cカ)</p> <p>○前時までの学習で、「自分が感じていること、他の人が感じていることが同じである保証はどこにもない」と筆者が述べていることを確認する。</p> <p>○何のために「あまみ、痛み」の例があったのかを確認する。</p> <p>◇言葉や表情をやりとりすることによって、私たちはそれなりに心を伝えたり、受け取ったりしている、という筆者の考えを捉えることができる。</p> <p>(思考力、判断力、表現力等 Cア)</p> <p>○友達と意見交流をした成果が表れた感想を発表させる。</p> <p>○単元計画の表を用いて、これまで、これからの学習を視覚的に捉えられるようにする。</p>
---	---